

〈目的〉 1991年10月から山口県大島郡東和町において、ひとり暮らしの高齢者を対象に毎日型給食サービスを実施するにあたり、満足してもらええる食事を提供するための基礎資料とするために、ひとり暮らしの高齢者について食生活調査を行った。

〈方法〉 対象は、山口県大島郡東和町の65歳以上でひとり暮らしの男女145人、うち有効回答は119人である。調査は1991年7月から8月の期間に、質問紙による個人面接法にて行った。

〈結果〉 給食サービスを受ける側の高齢者が満足できる食事のあり方を考察するために、食事満足度について分析を行った。食事満足度を把握するための質問項目は、前報<sup>1)</sup>と同様である。そして食事満足度に影響すると考えられる質問項目との関係を見るために $\chi^2$ 検定を行った。その結果、5%以上の水準で23項目に有意差が認められた。そこで $\chi^2$ 検定結果と高齢者の生活構造を考え、食事満足度に影響を及ぼすと考えられる6要因、14カテゴリーを選定し、満足度とこれらの要因との構造を考察するために数量化Ⅱ類により分析を行った。その結果、食事満足度に及ぼす第一の要因は「食品摂取状況」であり、第二は「家計状況」、第三は「調理の好き嫌い」、第四は「欠食状況」であった。残る2要因は「孤独感」と「主観的健康度」であった。また、過去3年間における調査から、ひとり暮らしの高齢者を抽出し、同様に分析した結果、6要因のうち「食品摂取状況」と「調理の好き嫌い」および「欠食状況」は共通した要因であった。 1)足立蓉子:家政誌, 42, 529(1991)